

令和5年度

全国学力・学習状況調査 結果分析

《小学校・中学校》

令和5年10月
松阪市教育委員会

目 次

1	調査の概要	…	1
2	調査結果	…	2
	(1) 教科に関する調査		
	① 小学校		
	② 中学校		
	(2) 質問紙調査	…	8
	I <児童生徒質問紙>		
	① 基本的生活習慣等		
	② 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等		
	③ 学習習慣、学習環境等		
	④ 地域や社会に関わる活動の状況等		
	⑤ ICT を活用した学習状況		
	⑥ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況		
	⑦ 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳		
	⑧ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語、算数・数学、英語)		
	II <学校質問紙>	…	12
	① 小学校教育と中学校教育の連携		
	② 家庭や地域との連携等		
3	成果につながったと考えられる松阪市の取組	…	13
4	調査結果の分析	…	14
	児童生徒質問紙と学校質問紙、教科に関する調査に係る分析		
	(1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する取組状況		
	(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する取組状況(英語)		
	(3) カリキュラム・マネジメントに関する取組状況(総合的な学習の時間等の充実)		
	(4) カリキュラム・マネジメントに関する取組状況(家庭や地域との連携等の推進)		
5	全国学力・学習状況調査結果を踏まえた今後の取組	…	22
	(1) 松阪市教育委員会の施策の充実		
	(2) 学校の実践の焦点化		

*本冊子において、児童生徒質問紙及び学校質問紙の回答の数値は、肯定的な回答の割合を示す。

用語説明

語句	説明
平均正答率	市内小・中学校の平均正答数を百分率で表示。 国語、算数・数学、英語の平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。
肯定的な回答	質問紙調査において、例えば「当てはまる。どちらかといえば、当てはまる。どちらかといえば、当てはまらない。当てはまらない」の選択肢がある場合、「当てはまる。どちらかといえば、当てはまる」の回答を示す。

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

松阪市教育委員会

本年4月に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の調査結果や本市における児童生徒の学力の定着状況、生活習慣、学習状況等の分析結果、本市の学力向上の取組、及び今後の取組を以下のとおりまとめる。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における個々の児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 児童生徒一人一人が自らの学習状況を把握し、学習改善や学習意欲の向上につなげる。

(2) 調査問題の在り方

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃は、グローバル化や人工知能(AI)等の技術革新が急速に進み、予測困難な時代が予想される。子どもたちには、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、仲間とともによりよい社会や人生を切り拓く力が求められる。この状況を踏まえ、平成29年3月31日に幼稚園・小学校・中学校の学習指導要領等の改訂告示が公示された。

学習指導要領では、教科等の目標や内容について、以下の三つの柱に基づいて再整理されている。

- 生きて働く「知識及び技能」
- 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」
- 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」

この学習指導要領では、未来を切り拓いていくための資質・能力は、上記の三つの柱が相互に関連し合いながら、育成されるという考え方に立っている。このようなことから、平成31年度(令和元年度)以降の調査では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、知識・活用を一体的に問うこととなった。

調査問題には、未来を切り拓いていくために、子どもたちに身に付けさせたい力が、具体的に示されている。調査問題自体が、学校や児童生徒に対して、土台となる基盤的な事項を具体的に示していることを踏まえ、実際の学習指導要領の下での授業改善、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上に関して役立てることが重要であるとしている。

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査

- ア 小学校においては国語・算数、中学校においては国語・数学・英語の3教科について、調査を実施する。
- イ 出題範囲は、小学校においては小学校第5学年、中学校においては中学校第2学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりである。
 - (ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - (イ) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- ウ 調査問題では、上記(ア)と(イ)を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

② 質問紙調査

- ア 児童生徒に対する調査
 - 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- イ 学校に対する調査
 - 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査実施日 令和5年4月18日(火)

(5) 調査の対象

種目	学校数	対象学年及び実施児童生徒数
小学校調査	36校	小学校第6学年 1,399人
中学校調査	11校	中学校第3学年 1,244人

2 調査結果

(1) 教科に関する調査

① 小学校

<令和5年度 各教科の平均正答率>

	国語	算数	2教科平均
松阪市	68.9	64.0	66.5
三重県	66.9	61.8	64.4
全国	67.2	62.5	64.9
全国との差	+1.7	+1.5	+1.6

<主な成果○と課題●>

- 国語科では、目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができている。
- 算数科では、正方形の意味や性質について理解することが概ねできている。
- 国語科では、情報と情報の関係を捉えたり、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることに課題がある。
- 算数科では、高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大小を判断するのに必要な情報を見出し、その理由を記述することに課題がある。

② 中学校

<令和5年度 各教科の平均正答率>

	国語	数学	英語	2教科平均	3教科平均
松阪市	69.0	53.7	44.2	61.4	55.6
三重県	68.7	51.3	45.0	60.0	55.0
全国	69.8	51.0	45.6	60.4	55.5
全国との差	-0.8	+2.7	-1.4	+1.0	+0.1

<主な成果○と課題●>

- 国語科では、事象や行為、心情を表す語句について理解することが相当数できている。
- 数学科では、数と式の乗法の計算をすることは概ねできている。
- 英語科では、情報を正確に聞き取ることができている。
- 国語科では、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することに課題がある。
- 数学科では、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。
- 英語科では、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることに課題がある。

○小学校 <課題が見られる問題における松阪市児童の解答状況等>

(例) 国語 Ⅱ 二【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く

◇出題の趣旨

情報と情報の関係を捉えたり、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることができるかどうかをみる。

Ⅱ グラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

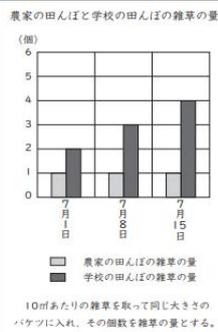
【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア いがいに雑草が増えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと イくらべてみました。 ウきかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしゅうかくすることができました。

二川村さんは、選んだカードをもとに、次の【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点とその解決方法について書くように書きますか。あとの条件に合わせて書きましよう

【カード①】

6月24日
・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
・そのまま雑草が増えたら米のしゅうかくにえいきょうするのではないかと心配だ。

【カード②】

6月30日
・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
・調査きかん 7月1日～15日

【カード③】

7月19日
・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
・雑草の量と米のしゅうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】

7月20日
【農家の石山さんのお話】
・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日
【学校でできる解決方法】
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

【川村さんの考え】
雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて、問題点とその解決方法を書こう。



川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書くこととしています。次は、【川村さんの考え】と川村さんが選んだ【カード①】から【カード⑤】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましよう。

◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	27.4	26.7
無解答率	6.0	7.1

【正答例】

グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。

Blank grid for writing answers.

- 学校の米作りの問題点については、【川村さんの文章】のグラフ(農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量)と【カード④】のそれぞれから分かることを書くこと。
- 問題点の解決方法については、【カード⑤】をもとにして書くこと。
- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

◇松阪市児童の解答状況及び改善方策

誤答としては、【川村さんの文章】のグラフから分かることか、【カード④】から分かることかのいずれかしか書かれていないものが多かった。このことから、グラフから分かること(学校の田んぼの雑草の量が増えていることや農家に比べて多いこと)【カード④】から分かること(雑草が多いと栄養をとられて米の収穫が減ることや稲が病気になること)を関連付けて捉えることができなかった児童がいたと考えられる。

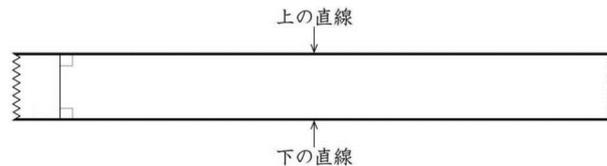
分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを、児童が考えられるようにすることが大切である。そのためには、それぞれの図表やグラフの特徴、優れている点などについて、他教科等と関連して指導することも考えられる。また、推敲の際は、図表やグラフなどの用い方は適切か、図表やグラフを用いることで書く必要がなくなった文章はないか、あるいは、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないかといった観点で見直していくことが大切である。

(例) 算数 2 図形の構成の仕方を観察して図形について判断すること(テープ)

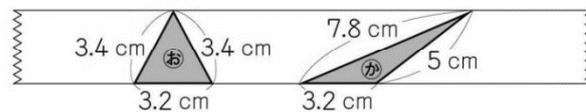
◇出題の趣旨

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

2 えいたさんたちは、テープを持っています。テープの上の直線と下の直線は並行で、テープのはばはどこも等しくなっています。



(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。

下の 1 から4までのの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数字を使って書きましょう書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	20.0	20.8
無解答率	2.8	4.0

【正答】 3

【正答例(わけ)】

三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。㊸と㊹の底辺は、どちらも3.2cm なので等しいです。㊸と㊹の高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。だから、㊸と㊹の面積は等しいです。

◇松阪市児童の解答状況及び改善方策

高さが書かれていないので、4の「㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない」としている誤答が多かった。このような解答が見られた児童は、2つの三角形の高さが同じであるということに気付くことができていないか、具体的な数値が示されていないので比べることができないと判断したと考えられる。

具体的な数値が示されていない場合において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見出したり、適当な数値をあてはめたりして考えることができるよう指導することが重要である。

○中学校 <課題が見られる問題における松阪市生徒の解答状況等>

(例) 国語 3三 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること

◇出題の趣旨

具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

三 山田さんは、「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章を内容のまとまりで二つに分け、後半のまとまりには分けた内容と合う見出しを付けることにしました。分ける箇所として最も適切なものを、(ア)から(オ)までの中から一つ選びなさい。また、後半のまとまりに付ける見出しを考えて書きなさい。

「判じ絵」について
山田 光一

1. はじめに
学校図書館の本で、「判じ絵」というものを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べることにした。

2. 調査方法
学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3. 調査結果

■「判じ絵」とは何か
「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。(ア)ただし、【図1】のように、描かれているもの【図1】ザルと意味しているものが異なるため、解読するには、「判じる」ことになる。(イ)言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものである。(ウ)また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ)そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ)さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。

■「判じ絵」の解読の面白さ
「判じ絵」の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。



【図1】ザル



【図2】スズメ

【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

【図3】は、

【図3】

【下書きの一部】

3 山田さんは、国語の時間に、言葉に関して興味をもったことをレポートにまとめています。次は、山田さんが書いているレポートの【下書きの一部】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	57.1	61.8
無解答率	2.0	2.1

【正答】 (ウ)
【正答例】
「判じ絵」の歴史
「判じ絵」の起源と広がり など

◇松阪市生徒の解答状況及び改善方策

誤答の具体的な例としては、見出しが無解答、「『判じ絵』について」や「江戸時代の文化」のようなものがある。このように解答した生徒は、「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章を内容のまとまりで適切に分けることはできているが、(ウ)以降の内容に共通する要素を抽出し、見出しを考えて書くことができていない。文章の(ウ)よりも前の部分を含めたり、(ウ)以降の文章の一部のみに着目したりして見出しを考えたものとも考えられる。

具体と抽象の関係を理解するためには、それぞれの言葉の意味を捉えた上で、具体と抽象が、状況や必要に応じて使い分けられていることを理解することが重要である。

(例) 数学 9 (1) 平行線や角の性質を基に、図形を考察する(合同な2つの三角形と平行線)

◇出題の趣旨

ある事柄が成り立つことを構想に基づいて、証明することができるかどうかをみる。

9 次の図1のように $CA=CB$ の二等辺三角形 ABC と、 $\triangle ABC \cong \triangle DEF$ となるような $\triangle DEF$ の2つの三角形を厚紙で作ります。

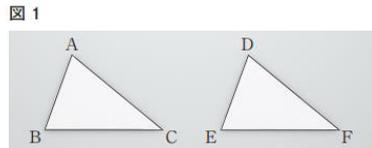


図1の2つの三角形の厚紙を使って、次の方法1と方法2でそれぞれ2つの直線をひきます。

方法1

◇ △ABCを置いて、直線BCをひく。そして、図2のように、△DEFを回して、点Fを点Aに、点Dを点Cに重ねる。

◇ 図3のように、点Aと点Fが重なった点をAとして、直線AEをひく。また、点Cと点Dが重なった点をCとする。

方法2

◇ △ABCを置いて、直線BCをひく。そして、図4のように、△DEFを回して、点Dを点Aに、点Eを直線BC上に置く。ただし、点Eは点Bと重ならないように置く。

◇ 図5のように、点Aと点Dが重なった点をAとして、直線AFをひく。

優奈さんは、方法1の直線BCと直線AE、方法2の直線BCと直線AFがそれぞれ平行になるのではないかと考え、調べることにしました。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい

(1) 優奈さんは、前ページの 図6

方法1の直線BCと直線AEが平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の△ABCと△CEAは、それぞれ $CA=CB$ 、 $AC=AE$ で、 $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ です。

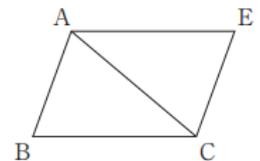


図6において、 $BC \parallel AE$ であることは、すでにわかっている $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ をもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。 $BC \parallel AE$ であることを証明しなさい。

◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	27.4	32.1
無解答率	26.0	24.7

【正答例】

$\triangle ABC \cong \triangle CEA$ より、合同な図形の対応する角は等しいから、 $\angle BCA = \angle EAC$
よって、錯角が等しいから
 $BC \parallel AE$

◇松阪市生徒の解答状況及び改善方策

誤答の具体例としては、錯角が等しいから、 $BC \parallel AE$ のみを記述している割合が高く、根拠が抜けていたり表現が不十分であったりする生徒が多かった。事柄が成り立つことを証明することができるようにするためには、構想を立て、それに基づいて過程から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

例えば、直線BCと直線AEが平行になることを証明するためには、錯角である $\angle BCA$ と $\angle EAC$ が等しいことを示せばよいと考え、そのためには仮定である $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ が合同であることを基にすればよいといった証明の方針を確認することが考えられる。その上で、 $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ から合同な図形の対応する角は等しいことを根拠として $\angle BCA = \angle EAC$ を示し、平行線になるための条件「錯角が等しい2直線は並行である」を根拠として、結論である「 $BC \parallel AE$ 」を示すことができるようにすることが大切である。

(例) 英語 6 自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取る

◇出題の趣旨

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。

6 次の英文は、友達の子デビッド(David)があなたに送ったメールです。メールを読んで、デビッドにおすすめのイベントとして最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。

Events on the Weekend

Date April 13, 2023 18:45

From David

Hello. How are you?
I'm excited to stay at your house this weekend.

I hear your town has some events on the weekend. I want to join one of them with you. Which event is the best? We both love sports, music, and cooking, right? Let's choose from among them.

I will arrive on Saturday afternoon. I have to leave before 4 p.m. on Sunday because I will have dinner with my family.

I'm looking forward to seeing you soon.

↩

1 Rugby Game



Let's watch together!

Date & Time
Saturday, April 15
9:30 a.m. - 11:30 a.m.

Place
Midori Park

2 Flower Market



You can buy beautiful flowers!

Date & Time
Saturday, April 15
9:00 a.m. - 4:00 p.m.

Place
Hikari Garden

3 City Orchestra



You can enjoy a wonderful performance!

Date & Time
Sunday, April 16
1:00 p.m. - 3:00 p.m.

Place
Tsubomi Hall

4 "Cook & Eat"



Let's enjoy cooking and eating!

Date & Time
Sunday, April 16
4:00 p.m. - 7:00 p.m.

Place
Cooking Room "Wakaba"

(注) Market: マーケット Orchestra: オーケストラ

◇松阪市の結果

	松阪市	全国
正答率	31.1	35.9
無解答率	0.2	0.3

【正答】 3

◇松阪市生徒の解答状況及び改善方策

誤答の具体例としては、メールで相手が示した2つの条件(イベントに関する条件と日時に関する条件)のうち、後半に書かれている I have to leave before 4 p.m.という日時に関する条件を読み取ることができず、もしくは、I will have dinner with my family.という情報と”Cook & Eat”というタイトルやイラストを結び付けて、4を選択する生徒が多かった。

自分の置かれた状況などから判断して、複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取るためには、書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのか判断した上で読み取ることが重要である。

日常的话题に関して、例えば、広告や予定表、手紙、電子メール、取扱説明書、パンフレットなどのできるだけ現実に近い場面において、文の一語一語の意味を全て理解する逐語的な読みから脱却し、必要な情報と不要な情報を整理しながら読み、自分が必要とする情報を読み取ることが大切である。

(2) 質問紙調査

I <児童生徒質問紙>

① 基本的な生活習慣等

※ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの : 全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	78.7	80.1	81.0	78.2	78.3	78.0
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	90.9	90.7	90.5	91.0	91.4	91.3

<松阪市全体の特徴的な傾向>

(数値は肯定的な回答の割合)

「(質問番号2) 寝る時刻」(以下質問番号のみ記載する)については、小学校で全国の割合を下回っている。「(3) 起きる時間」については、小中学校ともに90%以上の児童生徒が肯定的に回答している。

② 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

※ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの : 全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
4	自分には、よいところがあると思いますか	82.6	81.9	83.5	83.6	80.9	80.0
5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.8	89.8	89.8	89.9	89.2	87.3
6	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか(H31と比較)	95.4	94.3	93.0	92.4	91.5	88.9
7	将来の夢や目標を持っていますか	80.4	80.6	81.5	66.0	66.9	66.3
8	人が困っているときは、進んで助けていますか	93.2	92.3	91.6	89.4	89.2	88.1
9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.1	97.4	96.9	95.8	95.6	95.5
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	68.3	68.3	68.5	68.1	68.8	66.4
11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.1	96.1	95.9	95.1	94.6	94.6
13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	74.9	76.3	76.5	78.0	79.4	77.6
14	友達関係に満足していますか(新規)	91.4	90.3	90.3	88.7	89.7	88.7
15	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか(新規)	92.0	90.1	91.0	88.4	87.9	86.8

<松阪市全体の特徴的な傾向>

(数値は肯定的な回答の割合)

小学校においては、前回調査に比べて改善傾向が見られた質問が多く、小中学校ともに多くの質問で肯定的な回答の割合が全国の割合を上回っている。

「(5) 先生は、あなたのよいところを認めてくれているか」「(6) 先生は、分かるまで教えてくれているか」に対して、小中学校ともに肯定的に回答した児童生徒の割合が前回調査結果及び全国の割合を上回っている。

「(7) 将来の夢や目標を持っているか」に関しては、小学校では前回調査結果を上回ったが、小中学校ともに全国の割合を下回っている。

新規の質問「(14) 友達関係に満足しているか」と「(15) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」に対して、小中学校とも全国の割合と同等以上となっている。

③学習習慣、学習環境等

※ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの : 全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
16	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	68.2	68.7	70.7	57.2	58.1	55.0
17	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) ※1時間以上	57.5	54.0	57.1	65.5	64.9	65.8
18	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) ※1時間以上	45.5	44.7	52.5	55.7	59.6	65.3
20	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) ※10分以上	58.1	57.2	60.0	44.3	44.7	49.4
21	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館(それぞれ電子図書館を含む)にどれくらい行きますか ※月に1回以上	28.7	30.8	32.9	13.1	15.9	18.5
23	新聞を読んでいますか	10.5	11.8	12.6	6.1	8.4	8.1
24	読書は好きですか	68.8	70.1	71.8	62.3	65.4	66.0

<松阪市全体の特徴的な傾向>

(数値は肯定的な回答の割合)

上記で取り上げた「家庭での学習習慣」及び「読書習慣」に関する質問項目のうち、ほとんどの項目において、前回調査結果及び全国の割合を下回っている。特に、「(18)土日の勉強時間」は全国の割合を大きく下回っている。

④地域や社会に関わる活動の状況等

※ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの : 全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
小25 中29	今住んでいる地域の行事に参加していますか	66.0	64.4	57.8	45.4	47.0	38.0
小26 中30	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(新規)	78.8	77.9	76.8	67.0	68.8	63.9
小27 中31	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか(H31と比較)	74.6	75.2	72.5	69.7	69.2	66.8
小28 中32	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか(H31と比較)	79.8	79.4	78.1	68.3	66.2	63.2

<松阪市全体の特徴的な傾向>

(数値は肯定的な回答の割合)

上記の「地域や社会に関わる活動」に関する全ての質問項目に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国の割合を上回っている。また、多くの質問項目において、前回調査結果と比べて改善傾向が見られた。

⑤ICT を活用した学習状況

※ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの : 全国の割合を上回っているもの

質問 番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
小29 中33	これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ※週1回以上	94.5	89.4	86.3	97.0	95.5	87.5
小30 中34	学習の中で PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	96.0	95.4	95.1	95.7	94.0	93.3
小31 中35	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか(新規) ※1時間以上	17.4	16.8	17.9	20.2	13.7	13.4
小59 中65	家庭学習の課題(宿題)として、どの程度 PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか(新規)※週1回以上	30.7	31.7	29.5	28.6	26.0	22.9

<松阪市全体の特徴的な傾向>

(数値は肯定的な回答の割合)

ICT 機器の活用が進んでおり、「(小30中34)ICT 機器の有用性」に関する質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合が全国の割合を上回っている。「(中35)ICT 機器を、1時間以上勉強のために使っている」と回答した生徒の割合も全国の割合を大きく上回っている。「(小59中65)ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている」の質問に対して、小中学校とも全国の割合を上回っているが、30%程度にとどまっている。

⑥主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

※ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの : 全国の割合を上回っているもの

質問 番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
小32 中36	これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	59.1	63.0	63.7	62.3	59.3	62.1
小33 中37	これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	76.2	79.1	78.8	81.2	81.6	79.2
小34 中38	これまでに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	70.1	72.3	74.4	70.4	69.4	69.1
小35 中39	これまでに受けた授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間などになっていましたか	84.2	83.0	82.9	77.3	78.7	74.9
小36 中40	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか	80.6	81.4	81.8	79.5	79.9	79.7
小37 中41	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	78.6	77.5	77.4	72.4	72.8	69.2
小38 中42	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか(H31と比較)	81.6	81.4	81.9	75.1	71.8	69.9

<松阪市全体の特徴的な傾向>

(数値は肯定的な回答の割合)

小中学校とも「(小35中39)授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間などになっていたか」、「(小37中41)学習内容を見直し、次の学習につなげることができているか」に対しては、全国の割合を上回っている。中学校においては、「(中40)学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」以外の質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合が全国の割合を上回っている。

⑦総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳

※ : 前回調査に比べて改善傾向にあるもの : 全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
小39 中43	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	63.9	66.7	74.8	64.8	64.1	72.6
小41 中45	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	73.3	74.7	75.7	75.1	73.3	71.6
小42 中46	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	84.4	82.1	83.6	91.4	87.3	86.3

<松阪市全体の特徴的な傾向>

(数値は肯定的な回答の割合)

「(小42中46)道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいるか」に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合が、小中学校ともに全国の割合を上回っている。一方で、「(小39中43)総合的な学習の時間における探究の過程」については、小中学校ともに前回調査結果及び全国の割合を下回っており、松阪市の経年的な課題となっている。

⑧学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語、算数・数学、英語)

※ : 前回調査等に比べて改善傾向にあるもの : 全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校第6学年			中学校第3学年		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
小43 中47	国語の勉強は好きですか	54.0	57.2	61.5	54.0	60.0	61.4
小44 中48	国語の勉強は大切だと思いますか	96.1	94.1	94.2	92.7	93.4	92.4
小46 中50	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	93.9	92.7	92.8	89.6	89.9	88.7
小51 中55	算数(数学)の勉強は好きですか	59.4	62.0	61.4	54.0	59.8	56.7
小52 中56	算数(数学)の勉強は大切だと思いますか	96.6	94.6	94.2	84.7	86.5	85.0
小54 中58	算数数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	95.0	93.8	93.3	75.3	78.0	75.8
小55 中59	英語の勉強は好きですか(R3と比較)	65.1	68.6	69.3	44.5	51.0	51.9
小56 中60	英語の勉強は大切だと思いますか(小学校は新規)(中学校はR3と比較)	94.1	92.3	91.3	86.8	89.0	88.0
中62	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか(H31と比較)	—	—	—	87.7	88.2	87.5

<松阪市全体の特徴的な傾向>

(数値は肯定的な回答の割合)

「国語、算数(数学)、英語は好きか」の質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合が、小中学校ともに前回調査結果及び全国の割合を下回っている。「国語、算数(数学)、英語の勉強は大切だと思うか」の質問に対しては、小学校においては、全ての教科の項目で全国の割合を上回っており、国語・算数では、前回調査結果を上回っている。中学校においても、国語では、全国の割合を上回り、英語では、前回調査結果を上回っている。

「国語、算数(数学)、英語の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つと思うか」の質問に対して、小中学校ともに国語、中学校では英語において全国の割合を上回っている。

Ⅱ<学校質問紙>

学習指導要領では、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会とが共有し、社会と連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を重視し、その理念を前文に明示している。

この理念の実現に向けては、義務教育 9 年間を通して、組織的・継続的に地域と学校が連携・協働していくことが重要であることから、以下の質問項目を取り上げた。

① 小学校教育と中学校教育の連携

※ : 前回調査等に比べて改善傾向にあるもの : 全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校			中学校		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
小67 中75	前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	69.4	70.9	60.6	90.9	82.2	66.8
小68 中76	前年度までに、近隣等の小中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	91.7	79.6	58.2	100	82.9	67.3
小69 中77	令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小中学校と成果や課題を共有しましたか	72.3	75.8	53.6	90.9	78.3	54.7

<松阪市全体の特徴的な傾向>

(数値は肯定的な回答の割合)

上記の「小中連携」に関する全ての項目において、肯定的に回答した学校の割合が小中学校ともに全国の割合を上回り、中学校においては前回調査結果に比べて、改善傾向が見られる。特に「(小68中76) 合同研修」に関して、小中学校とも前回調査結果及び全国の割合を上回っている。

② 家庭や地域との連携等

※ : 前回調査等に比べて改善傾向にあるもの : 全国の割合を上回っているもの

質問番号	質問事項	小学校			中学校		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
小70 中78	職場見学を行っていますか(職場体験活動を何日程度行いましたか※1日以上)	52.8	41.7	39.6	63.7	59.3	54.1
小71 中79	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	97.2	91.3	86.7	81.9	86.2	83.2
小72 中80	保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか	91.7	97.1	95.9	81.9	84.9	82.1
小73 中81	(小72中81)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか(新規)	86.1	81.1	78.8	90.9	65.8	60.7
小74 中82	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか(新規)	88.9	91.6	86.1	90.9	90.7	79.3

(数値は肯定的な回答の割合)

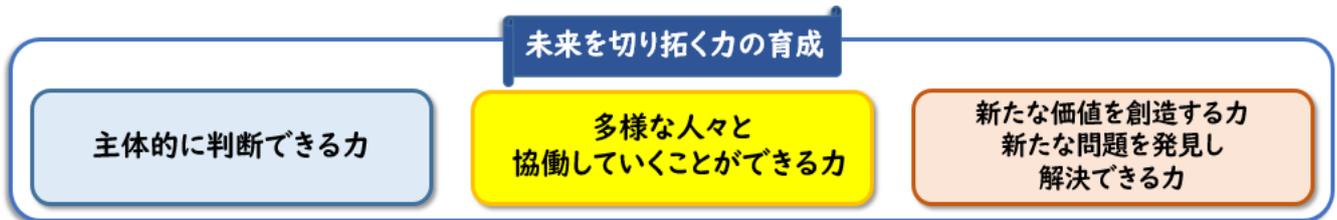
<松阪市全体の特徴的な傾向>

上記の「家庭や地域との連携等」に関する多くの質問項目について、肯定的に回答した学校の割合が全国の割合を上回っている。「(小71中79) 教育課程の趣旨の共有」については、小中学校とも前回調査結果に比べて改善傾向が見られる。「(小72中80) 保護者・地域の方の教育活動」に対しては、小中学校とも前回調査結果及び全国の割合を下回っている。

3 成果につながったと考えられる松阪市の取組

(1) 基本的な考え方

文部科学省では、これからの予測困難な社会を生き抜く子どもたちに育てたい力として、教室の中だけで学習を終えるのではなく、自ら課題を見つけ、自ら考え、判断して行動し、仲間とともによりよい社会や人生を切り拓く力を掲げている。令和4年度、松阪市においては、学習指導要領の着実な実施と GIGA スクール構想に係る ICT 環境整備を踏まえ、子どもたちに未来社会を切り拓くための資質・能力の一層確実な育成を図る取組を各学校で行った。教育活動の質を高めるためには、子どもたちの学びの姿や教育活動をふり返り、改善・充実を図っていくことが大切である。



(2) 松阪市教育委員会の具体的な取組

① 「主体的・対話的で深い学び」の創造

- 「未来を切り拓く力」育成モデル校区事業による取組の充実
- 「未来を切り拓く学力向上タスクフォース」による授業改善方策の提供
- 指導主事による校内研修等での指導助言（オンライン研修含む）
- 授業力向上アドバイザーの派遣
- 学級経営マイスター事業による安心して学ぶことができる学級づくりの推進
- 英語コミュニケーション力向上推進事業による研究推進及び授業改善方策の提供 等

② 「カリキュラム・マネジメントの確立

- 松阪市学力向上推進協議会による「本居宣長さんの教え 5つのチャレンジ」のリーフレットの作成
- 教務担当者会議・教科担当者会議等の担当者会議の実施
- 松阪市標準学力調査を活用した個に応じた指導の充実の推進 等

(3) 学校の取組

① 「主体的・対話的で深い学び」の創造

- 「考えをもつ時間」「伝え合い、広げ深める時間」の充実
- 授業改善に関する校内研修等の実施・推進
- 複数の領域を統合した言語活動を通じた指導の充実（英語） 等

② 「カリキュラム・マネジメント」の確立

- 各教科等の学習内容を横断的な視点で捉えた配列の工夫
- 各種調査結果を活用した PDCA サイクルの確立
- 地域等の外部の資源を含めた、効果的な指導計画の作成・活用
- 保幼小中が連携した教育体制の確立 等

4 調査結果の分析

児童生徒質問紙と学校質問紙、教科に関する調査に係る分析

児童生徒質問紙調査の結果と教科に関する調査結果からクロス分析を加え、学力との相関関係について考察した。以下は、児童生徒質問紙調査に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科に関する調査の平均正答率が高い傾向が見られた質問項目の中から、主な質問項目を抜粋して掲載している。また、経年変化や関連する学校質問紙についても考察した。

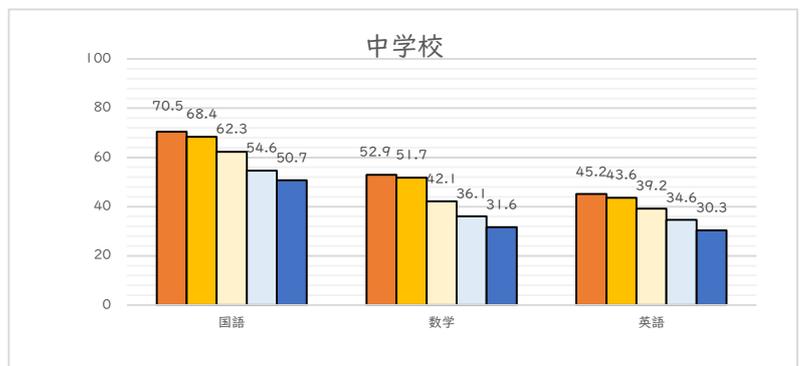
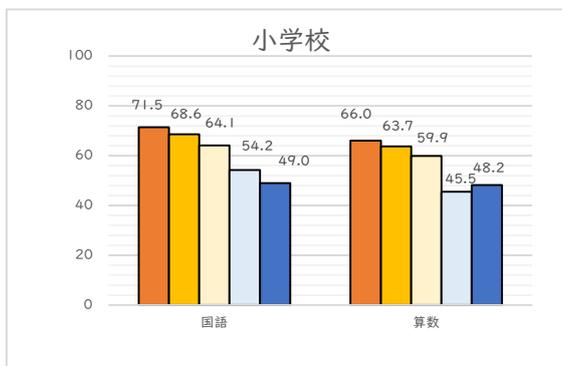
(1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する取組状況

<児童生徒質問紙>

質問番号	質問事項
小36中40	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

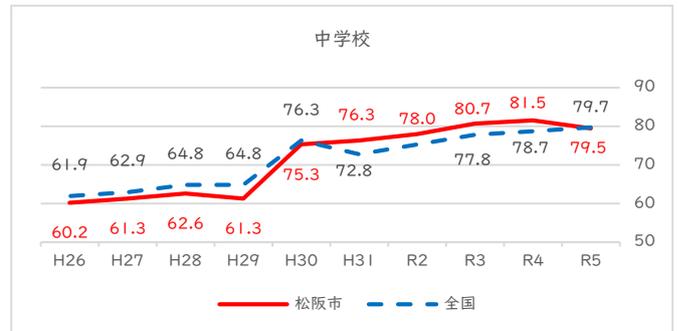
<学力とのクロス分析>

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない ■話し合う活動を行っていない



(数値は平均正答率)

<児童生徒質問紙の経年変化分析>



(数値は肯定的な回答の割合)

<学校質問紙>

質問番号	質問事項	小学校	中学校
		松阪市	松阪市
21	言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか(新規)	100	90.9
32	前年度までに、児童(生徒)が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか(新規)	91.6	90.9

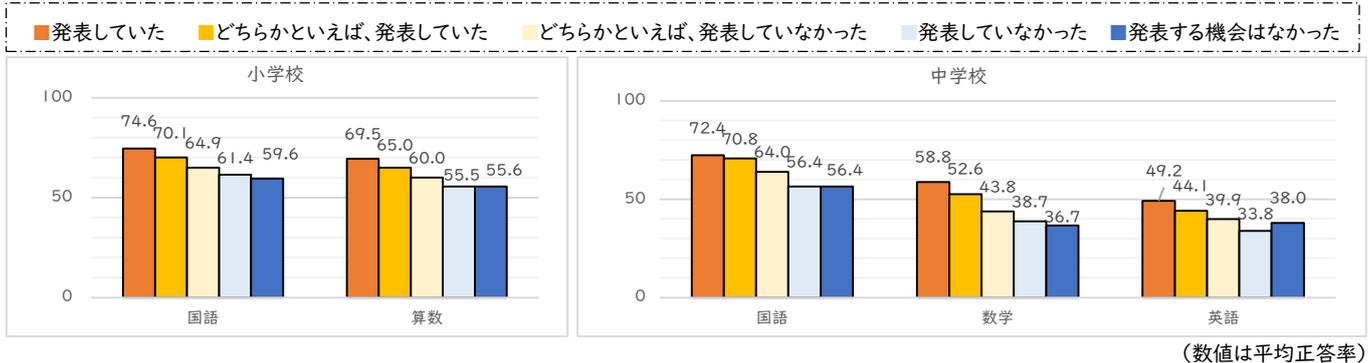
(数値は肯定的な回答の割合)

「(小36中40)話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」について肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、授業の中で適切に言語活動が行われることが重要であると考えられる。

松阪市の児童生徒質問紙の本項目に関する経年変化分析では、平成26年から確実に改善傾向が見られる。学校質問紙(21)(32)では、小中学校ともに90%以上の学校が肯定的に回答している。このことから、学校全体として言語活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりする授業改善が進んでいることがうかがえる。

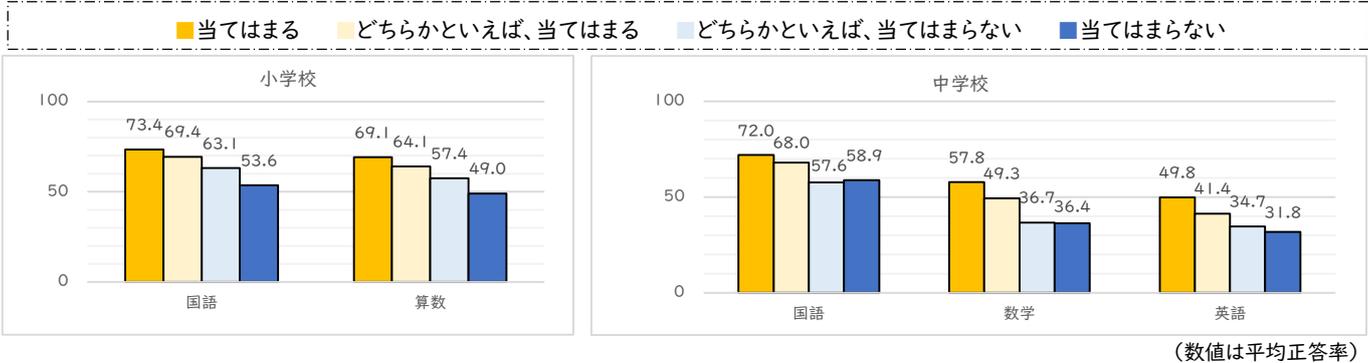
質問番号	質問事項
小32中36	前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

<学力とのクロス分析>



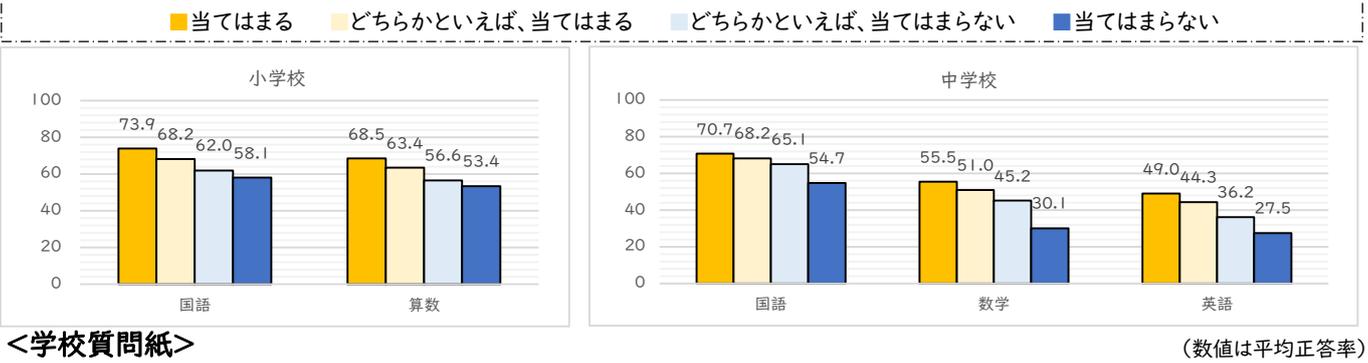
質問番号	質問事項
小33中37	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

<学力とのクロス分析>



質問番号	質問事項
小37中41	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

<学力とのクロス分析>



<学校質問紙>

質問番号	質問事項	小学校	中学校
		松阪市	松阪市
33	前年度までに、授業において、児童(生徒)自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	86.1	72.7

児童生徒質問紙における上記の質問項目に対して、肯定的に回答した児童生徒の方が教科の平均正答率が高い傾向が見られる。学校質問紙の、「(33)課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動」については、小学校と中学校において取組に差があることがうかがえる。これらのことから、今後も、身に付けさせたい力を明確にし、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせた言語活動や数学的活動等が行えるよう、「未来を切り拓く学力向上タスクフォース」が示した授業改善のポイントである「考える時間の充実」「伝え合い広げ、深める時間の充実」を授業に位置付け、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めていく必要がある。

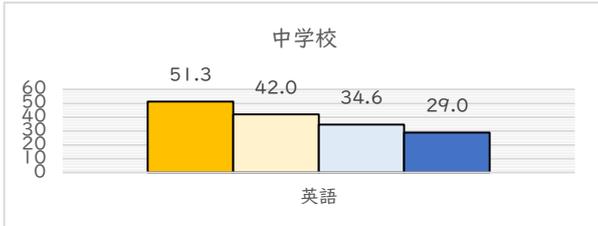
(2)「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する取組状況(英語)

<生徒質問紙>

質問番号	質問事項
中66	1,2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか

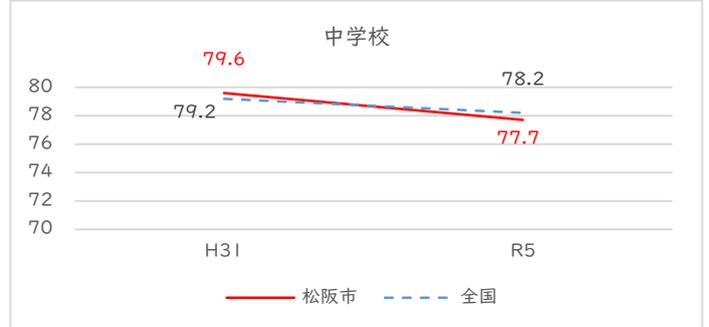
<学力とのクロス分析>

- 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



(数値は平均正答率)

<生徒質問紙の経年変化分析>

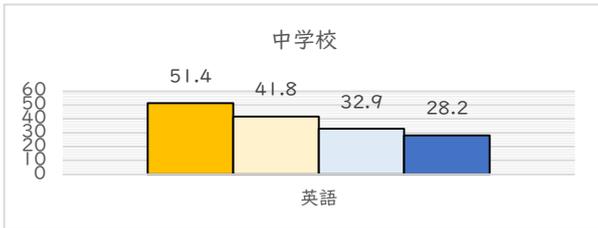


(数値は肯定的な回答の割合)

質問番号	質問事項
中67	1,2年生のときに受けた授業では、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか

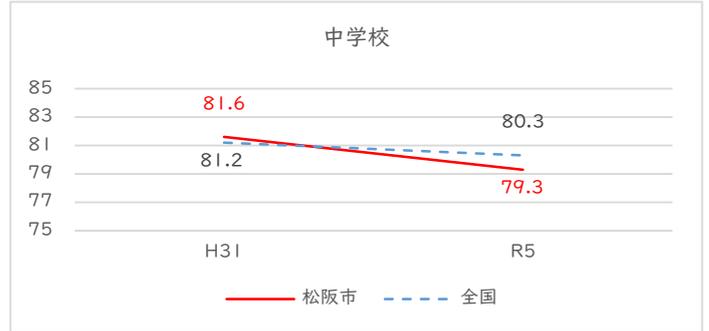
<学力とのクロス分析>

- 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



(数値は平均正答率)

<生徒質問紙の経年変化分析>

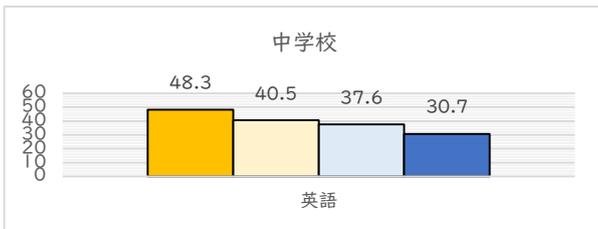


(数値は肯定的な回答の割合)

質問番号	質問事項
中69	1,2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか

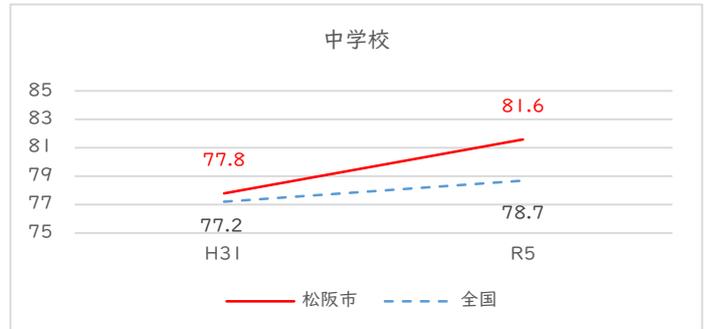
<学力とのクロス分析>

- 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



(数値は平均正答率)

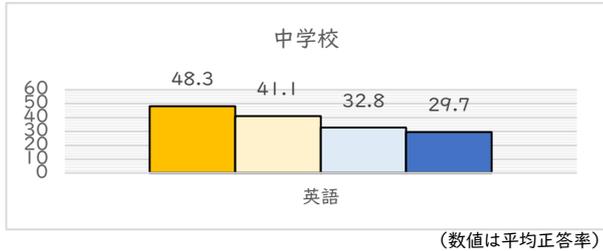
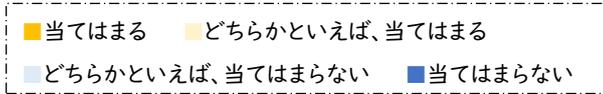
<生徒質問紙の経年変化分析>



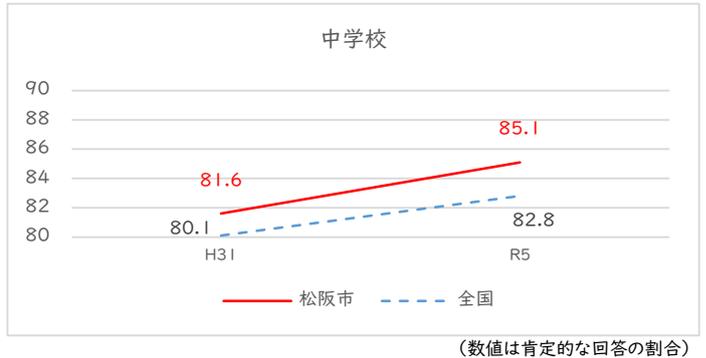
(数値は肯定的な回答の割合)

質問番号	質問事項
中70	1,2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか

<学力とのクロス分析>

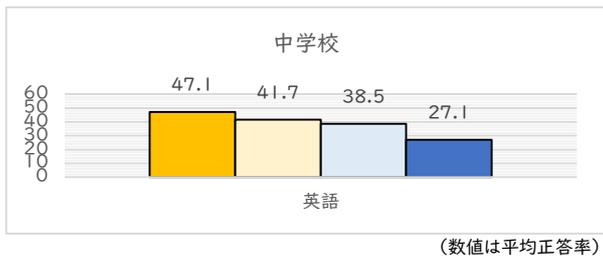
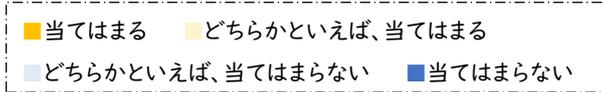


<生徒質問紙の経年変化分析>

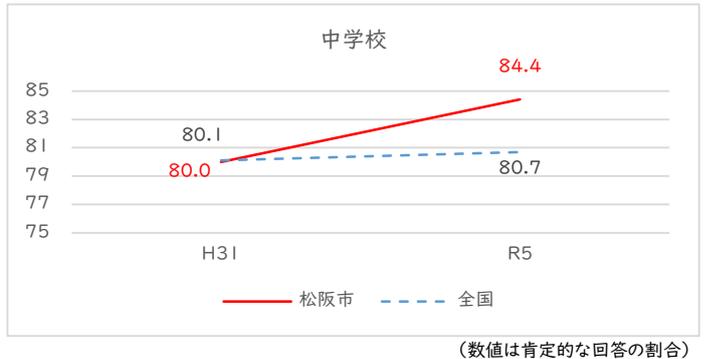


質問番号	質問事項
中71	1,2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか

<学力とのクロス分析>

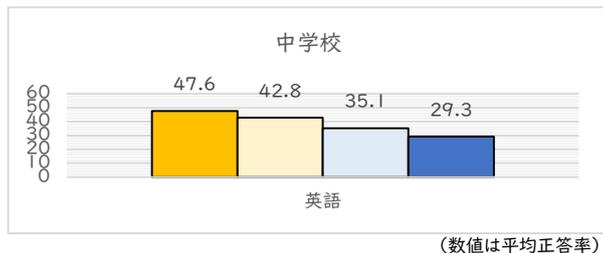
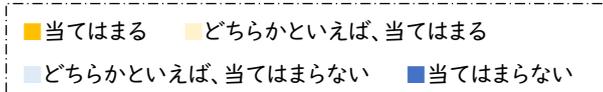


<生徒質問紙の経年変化分析>

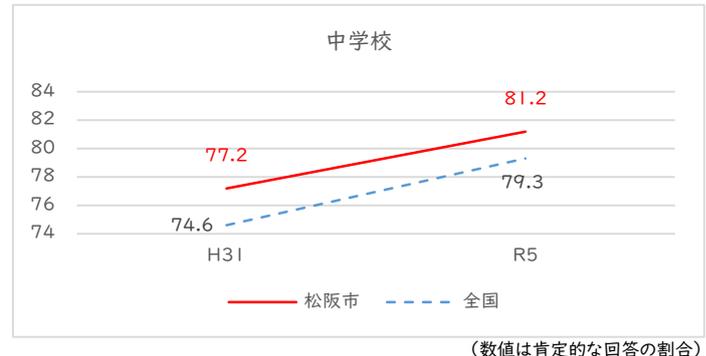


質問番号	質問事項
中72	1,2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめた後自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか

<学力とのクロス分析>



<生徒質問紙の経年変化分析>



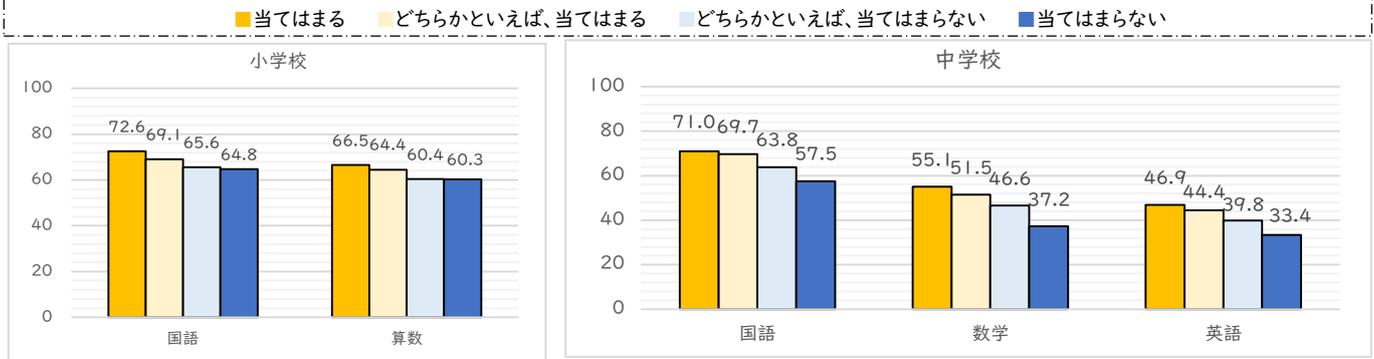
英語を聞いたり読んだりして概要や要点を捉える活動や、まとめた内容や自分の考え、気持ちなどを英語で発表したり書いたりする活動、聞いたり読んだりしたことについて、意見を述べ合ったり書いたりする活動を行っていた生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。生徒質問紙の経年変化分析からは、「話す」「書く」及び技能統合型の言語活動の取組状況は改善傾向がうかがえるが、「聞く」「読む」言語活動の取組状況については課題が見られる。これらのことから、授業等において、「聞く」「読む」言語活動を充実させるとともに、複数の技能を統合しながら、生徒が英語の知識及び技能を活用し、思考・判断・表現を繰り返すことを通じて学習内容を深めていくことが大切である。なお、基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、生徒の主体性を引き出すなどの工夫を重ね、確実な習得を図ることが必要である。

(3) カリキュラム・マネジメントに関する取組状況 (総合的な学習の時間等の充実)

<児童生徒質問紙>

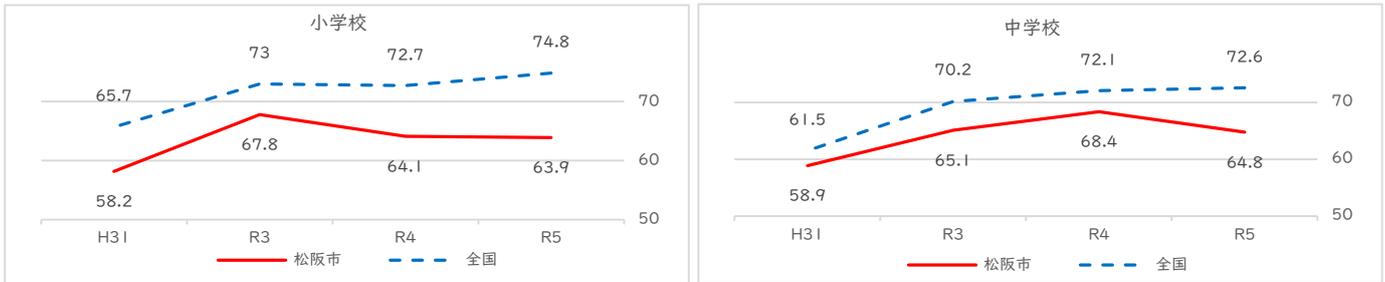
質問番号	質問事項
小 39 中43	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

<学力とのクロス分析>



(数値は平均正答率)

<児童生徒質問紙の経年変化分析>



(数値は肯定的な回答の割合)

<学校質問紙>

質問番号	質問事項	小学校			中学校		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
20	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	94.5	96.2	95.5	72.8	88.9	88.5
37	総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	86.1	90.1	92.7	72.8	88.8	92.1

(数値は肯定的回答の割合)

「(小39中43)総合的な学習の時間での探究の過程」に対し、肯定的に回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

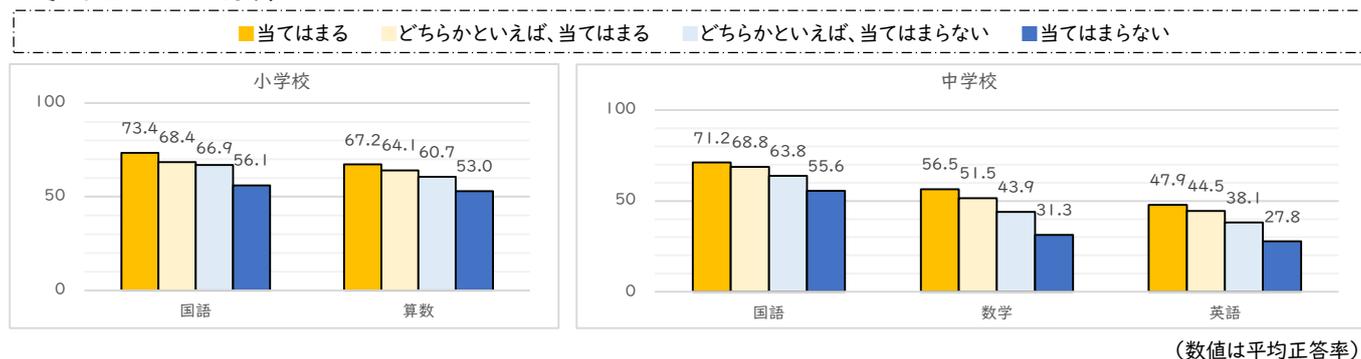
この質問項目の児童生徒質問紙経年変化分析からは、経年的に全国の割合を下回っている結果が見られた。学校質問紙の「(37)総合的な学習の時間での探究の過程」でも、肯定的に回答した学校の割合が小中学校ともに全国の割合を下回っており、本市の課題であるといえる。また、「(20)人的・物的資源等の活用」においては、小学校では90%以上の学校が肯定的に回答しているが、小中学校ともに全国の割合を下回っている。

一方で、児童生徒質問紙の「(小26中30)地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」では、肯定的に回答した児童生徒の割合が全国の割合を上回っていることから、本市の児童生徒は地域に愛着や関心を持ち、地域や社会の活性化に寄与する基礎が形成されていることがうかがえる。

これらのことから、引き続き、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて検討し、総合的な学習の時間と各教科等の相互の関わりを意識しながら、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントを行うことが必要である。

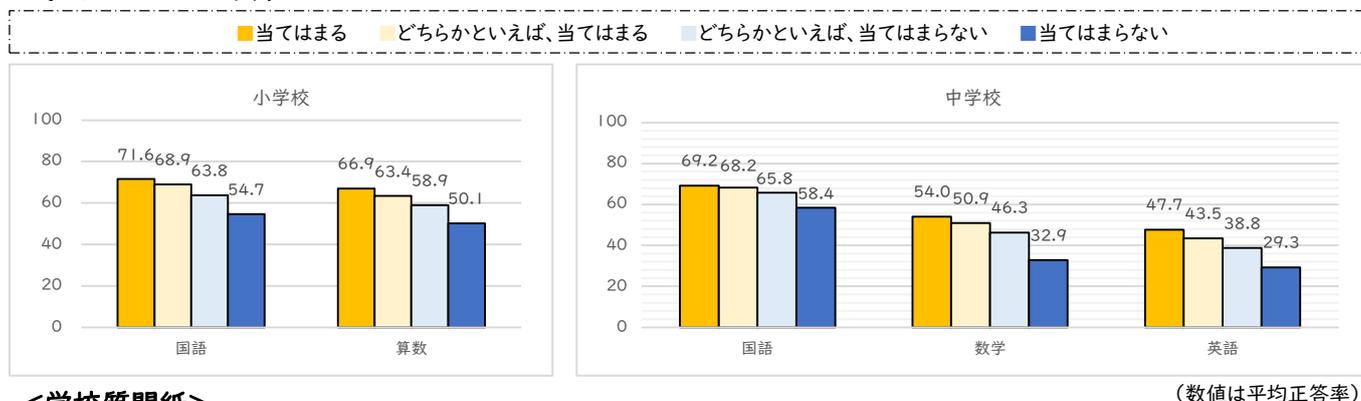
質問番号	質問事項
小34中38	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

<学力とのクロス分析>



質問番号	質問事項
小38中42	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか

<学力とのクロス分析>



<学校質問紙>

質問番号	質問事項	小学校			中学校		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
18	教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか(H31と比較)	97.2	95.3	96.3	81.8	94.7	94.1
19	児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	97.2	96.2	96.2	91.0	93.4	95.2
35	前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	69.4	85.7	85.6	63.7	74.4	78.6

(数値は肯定的回答の割合)

「(小34・38 中38・42)教科等横断的な学習」に関する質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。このことより、教科等横断的な学習を充実し、特に学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等)や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成を図る必要がある。

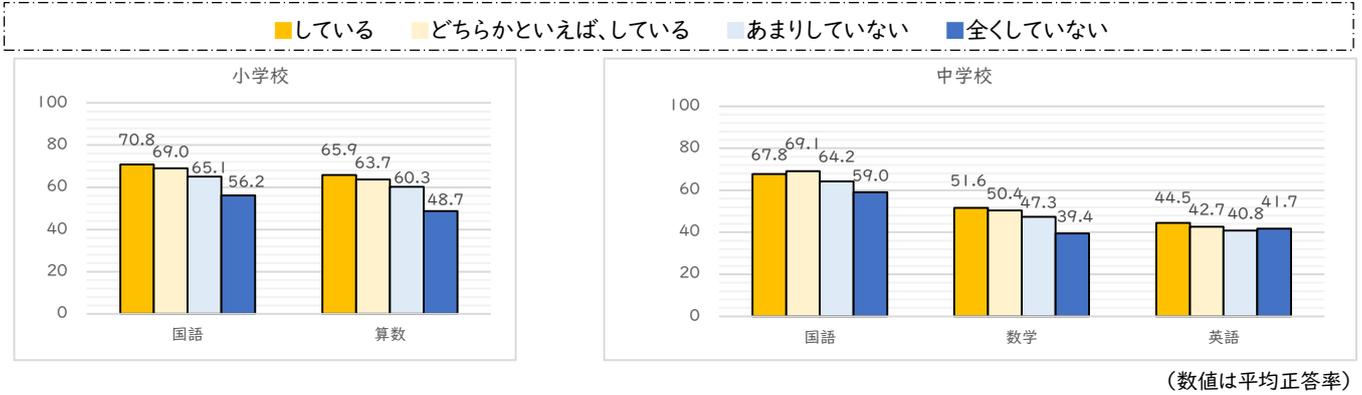
学校質問紙の「(18)教育課程表の相互関連」では、肯定的に回答した学校の割合が小中学校ともに前回調査結果を上回り、小学校では全国の割合を上回っている。80%以上の学校が、各教科や内容の相互関連が分かるように教育課程表を作成していることから、教科横断的な学習の充実を目指し、組織的な取組が進められていることがうかがえる。また、「(19)PDCAサイクルの確立」に対し、90%以上の学校が肯定的に回答している。一方で、「(35)各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かす機会の設定」に対しては、肯定的に回答した学校が70%以下となっており、課題である。児童生徒の「生きる力」を育むには、学校での学びを日常生活で活用したり、家庭での経験を学校生活に生かしたりすることが大切である。

(4)カリキュラム・マネジメントに関する取組状況(家庭や地域との連携等の推進)

<児童生徒質問紙>

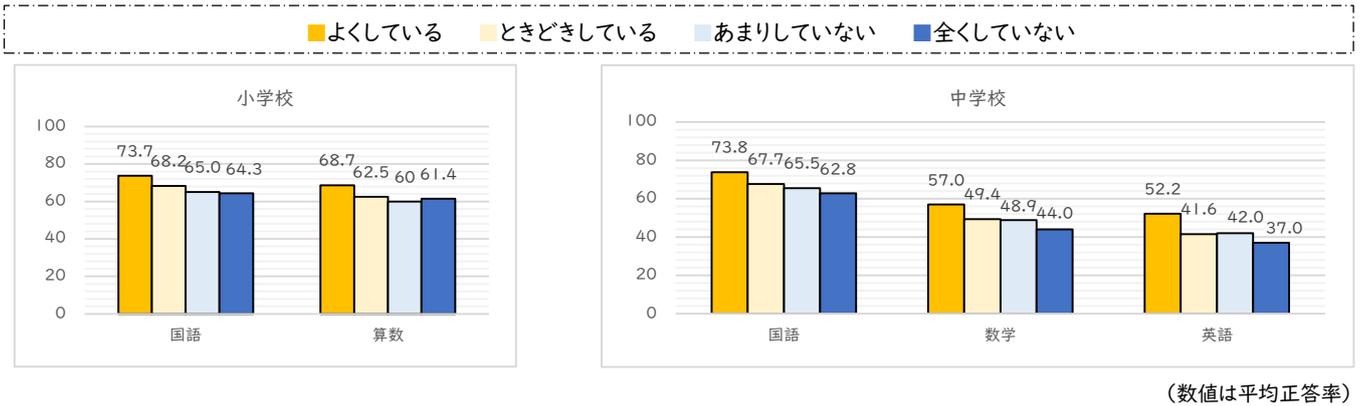
質問番号	質問事項
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

<学力とのクロス分析>



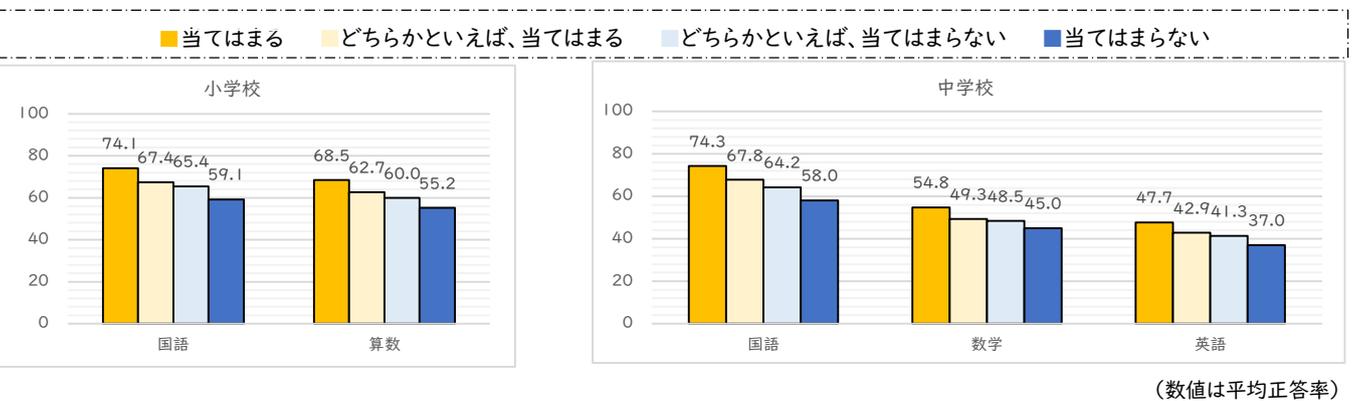
質問番号	質問事項
16	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)

<学力とのクロス分析>



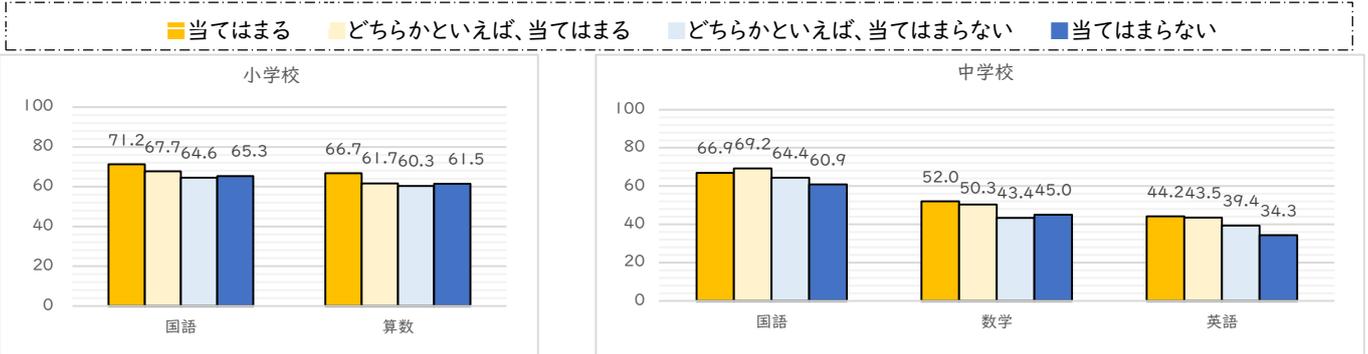
質問番号	質問事項
24	読書は好きですか

<学力とのクロス分析>



質問番号	質問事項
4	自分には、よいところがあると思いますか

<学力とのクロス分析>



(数値は平均正答率)

<学校質問紙>

質問番号	質問事項	小学校			中学校		
		松阪市	三重県	全国	松阪市	三重県	全国
小67 中75	前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	69.4	70.9	60.6	90.9	82.2	66.8
小71 中79	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	97.2	91.3	86.7	81.9	86.2	83.2
小74 中82	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか(新規)	88.9	91.6	86.1	90.9	90.7	79.3

(数値は肯定的回答の割合)

児童生徒質問紙の「(2) 毎日、同じ時刻に寝ている」「(16) 家で自分で計画を立てて勉強している」「(24) 読書が好き」と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。これらのことから、学校と家庭が協働し、3つの時間(寝る時間・学習する時間・読書する時間)を決めるなど、規則正しい生活習慣・家庭学習習慣を身に付けさせることは重要であると考えられる。しかしながら、児童生徒質問紙調査結果において、家庭学習や読書に関して、課題が見られる。具体的には、本市の児童生徒の家庭における学習時間が、小学校では休日、中学校では平日・休日ともに全国平均を下回るという結果が見られる。また、読書の時間も全国平均を下回るという結果である。今後、ICT等も活用し、宿題や自主学習等のあり方や内容について見直すとともに、家庭での学習習慣・読書習慣の定着に向けて、家庭と連携して取り組んでいく必要がある。

児童生徒質問紙の「(4) 自分には、よいところがある」に肯定的に回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。引き続き、学校・家庭・地域が協働し、認め、ほめ、励まし、伸ばしていく意識を持ち、児童生徒が安心して他者と関わったり、意見を伝え合ったりできる環境づくりや言語活動を行うことが重要である。

今、求められている資質・能力を子どもたちに育むためには、義務教育9年間の学校における教育体制を充実させるとともに、「社会に開かれた教育課程」の視点から、学校と保護者とが育成を目指す資質・能力について共有し、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てる教育体制の構築を図ることが重要である。

学校質問紙調査では、「(小67中75) 近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行ったか」に対し、肯定的に回答した学校の割合は、小中学校ともに全国の割合を上回っている。中学校においては90%の学校において小中の連携が図られており、義務教育9年間を見通した系統的な学びを意識した学校体制が構築されていることがうかがえる。

また、「(小71中79) 教育課程の家庭や地域との共有」や、「(小74中82) 学校と地域や保護者の相互理解」に対して、肯定的に回答した学校の割合が前回調査結果や全国平均を上回っており、家庭や地域との連携について進められてきていることがうかがえる。

上記のような取組をより進めることで、児童生徒の地域への愛着が高まり、豊かな生活を送ることにつながり、さらには、郷土を創る次世代の人材育成や持続可能な地域社会の形成にもつながるものと考えられる。今後、令和6年度までにコミュニティ・スクールを拡充し、教育課程の趣旨や教育活動を家庭や地域と共有を図る取組をさらに充実させ、学校・家庭・地域が協働し、義務教育9年間の学びを支える教育体制を地域全体で構築させていくことが必要である。

5 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた今後の取組

(1) 松阪市教育委員会の施策の充実

「主体的・対話的で深い学び」の創造

- 授業力向上アドバイザー派遣・指導主事の派遣・研修講座の実施
：「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の支援
- 学級経営マイスター事業の推進
：学力向上の基盤となる学級づくりの推進
- 英語コミュニケーション力向上推進事業による研究推進
：授業改善方策等の還流
- 「課題解決型の学習 (Project Based Learning)」の推進
：「答えのない問い」に長期的・継続的に取り組み、児童生徒が自ら課題を発見し解決する能力の向上推進

カリキュラム・マネジメントの確立

- 学力向上推進協議会の設置
：教育ビジョンの実現に係る方策等の立案
- 「未来を切り拓く力」育成モデル校区事業の推進
：中学校区の豊かな自然や歴史・文化、産業等の学びを介し、夢を育み「未来を切り拓く力」を、学校・家庭・地域が一体となって育む研究及び研究成果の還流
- 教務担当者会議・教科担当者会議・研修担当者会議等の充実
：効果的な取組等の還流を図る場の設定
- 松阪市標準学力調査・みえスタディ・チェックの活用
：一人ひとりの子どもに応じたきめ細やかな指導を進めるための支援
- 読解力向上プロジェクト「よむ YOMU ワークシート」の活用推進
：言語能力・情報活用能力・論理的思考力の育成に向けた研究及び研究成果の還流
- ICT 機器の活用推進
：授業・家庭学習での効果的な活用の推進
- コミュニティ・スクールの導入促進・充実
：子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制の構築

(2) 学校の実践の焦点化

「主体的・対話的で深い学び」の創造

- 「子どもたちが主体的に考え、伝え合い、広げ深める授業」の実現
・興味・関心や見通しをもつことができる「めあて」や「課題」の設定
・考えるための技法の指導
・指導事項等や伝え合う目的を明確にした言語活動の設定
・説明する力を伸ばすための技法の指導
・考えを広げ深めさせる発問等の研究
・考えを広げ深めさせる「ふり返し」の場の設定
- 総合的な学習の時間等の教科横断的な学習の充実
- 「課題解決型の学習 (Project Based Learning)」の推進
- ICT 機器の効果的な活用
- 4 技能 5 領域を統合的に指導し、総合的に育成する言語活動の充実 (英語) 等

カリキュラム・マネジメントの確立

- 各教科等の学習内容を横断的な視点で捉えた配列の工夫
- 各学校のめざす姿や資質・能力の育成につながる PDCA サイクルの確立
- 地域等の外部の資源を含めた、効果的な指導計画の作成・活用
- 学校間による取組の共有 等

